

## 老犬の痴呆症（認知症）について

老犬になると犬にも痴呆症（認知症）が起こる事があります。

13歳頃から増え始め15～6歳がピークといわれています。

脳の神経細胞が老化してきたり脳血管障害によって起こりますが、知性や感性、体をコントロールする自立神経などの機能が低下しますので飼い主さんにとっては困難ともいえる状況になるかもしれません。

起こる症状としては夜中の無駄吠え、昼夜逆転、夜間徘徊などが見られる様です。

部屋の中を徘徊した結果、狭い所へ頭を突っ込んだまま出て来れなくなったり、ぐるぐると同じ所を回ったりします。又、後退行動（方向転換）も難しくなり一方向に進んでゆこうとします。